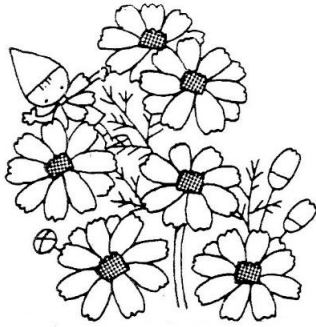


日ごとに秋も深まつていく感があります。日一日と秋の色が濃くなると、気も引きしまり、心も澄んでくるような気がします。

野らには、稲の穂が黄金の波を打ち、家屋敷には秋の光りを一身に集めるかのよう、柿が色づき始めます。こんな一日、よく思うことは、

「何が気にいらなくて、私達はくよくよし  
ているのであろうか」と  
いうことです。

「立つて秋風に頭を洗い、  
明月に心の雲を払え」と、  
永平寺先の貫主であられた  
佐藤禅師が折に触れ、  
法話の中で言っておられ  
たことを、ふと思ひ出し  
ました。



秋風、明月は人の思いのとどかぬ世界、い  
わゆる仏の世界とも、悟りの世界ともいえ

ます。又その中であつて、頭を洗い、心の雲を払えとは、仏の行を行じなさいということでもあります。

秋の澄んだ空の下、小さな人間の思いにとらわれることなく、ゆつたりと、安心して日々を行じていきたいものです。

皆さまには、お元気にてお過ごしでいらつしやることと思います。

ある欲張り男が、こんなことを願いました。

「お前十八、わしや二十、いつも歳をとらぬよう。使つてへらない金百両。死んでも命があるように」

など、こんな欲張りな願いはかなう筈ありませんが、然し誰とても、毎月毎日が楽しく、心配事から遠去かつた暮らしをしたいのにかわりはありません。

しかし仏教では、「日々これ好日」といつ

て、毎日が好い日であるといひます。

晴れてよし 曇りてもよし 富士の山

もとの姿は かわらざりけり

で八風吹けど、天辺の月は、雲や霧をこえていつも輝やいています。

そのように、私達が毎日色々な試練に会い、苦しい人生を送らなければならぬのもかえって、その災わいが転じて福となつて、働らく喜びや、苦しみを経ての楽しみとなつて、そこにいきがいを見出すのであれば、日々これ好日と過ごすことができます。

お寺には、おもらいさんというのか、お金や食べ物をお恵んでくれと言つてやつてくる人がよく来ます。

まだまだ働き盛りの壮年層の人々が多く、話しを聞くと、会社が倒産したとか、働き口がないと同じようなことを言うのです。

私が住職になりたての頃は、そういう人が

来ると、アチコチ働く所を紹介してやつたりもしたものでしたが、働かないことに慣れてしまったというのか、働く気力を失ってしまったような様子が伺え、結局、握り飯やパン、又はいくばくかの電車賃をもたして帰すことと相なるのですが、しかしそういう人を見つければ、人間は働くように出来ているとつくづく思われ、気の毒になることです。

仕事が次から次に押し寄せてくることは、一見迷惑のようですが、ひるがえつて思いをこらすと、こんなありがたいことはないのです。

それだけ、世の中が、人々が、私自身をまだ必要としているからであります。

「仕事が多くて困る。残業がこんな多くては身体がもたない。」と抗議する人もありません。



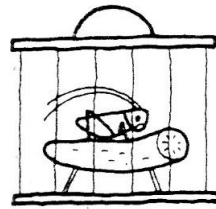
すが、それではと、作業分量を減らしたら  
どうでしょうか。

「何もしないで、遊んでいるのが楽だと思  
ったけれど、仕事がないのはもつと、苦痛  
だった」と活しておられるのを聞きました。  
「停年となり、第一線の仕事を退くと、急  
に気持ちまでふけこんでしまい、身体もガ  
ツクリと弱くなりました」と聞くことがあ  
りますが、同じ原理だと思えます。

女の方も若いお嫁さんが入り、家計を譲  
り、家事などから遠去かると、初めのうち  
は樂をしているような気がするものの、呆  
けたようになって、それまで楽しみであつ  
た旅行や習い事までも、つまらないことの  
ように思えて、氣力が失せてしまつたとも  
聞きます。

実際、健康な人にとって仕事の無いこと  
程、つらいことはないと思います。又健康  
に恵まれぬ人、年老いて思い通りに身体が

動かなくなつた人は、尚のこと寂しく、齒  
がゆい思いだと察せられます。  
こうしてみると働くこと、働けることは  
ありがたいことなのだと思わずにはいられ  
ません。



一口伝導板

○この秋は

雨か嵐か知らねども

今日のつとめの田草とるなり

○世の中に

なくてならぬ人

いない方がいい人

どうでもいい人

そして あなたは・・・

○立ち向かう 人の心は鏡なり

おのが心を

写してや見ん

特別志納者の紹介

○為 孝道哲順信女菩提供養

金 十萬円

小泉 幸弘殿

○為 健心大道上座菩提供養

拝敷 一枚

小宅 康友殿

御心に添うべく、お寺の為に使わせていただきます。

ありがとうございます。

住職閑話

「車を運転していて、お寺の正門が段々と近づくにつれ、わくわくするヨ。御本堂がまるで私を呼んでいるような気がするんだヨネ」と、先般、私に耳打ちされた御婦人がいます。

「夜、うす暗く気味が悪かったけれど、

せいせいと、明るく広々となったおかげで、お墓参りやお寺参りが楽しくなりました」と話してくれた御老人もいます。何よりの、おほめの言葉とうけとめ、増々お寺づくりに精を出そうと思っています。

お寺から

ありがとうございます

― 勤労奉仕 ―

八月二日、お盆を迎えるための準備の一環として、境内・墓地の清掃を、御都合のつく有志の方々で行いました。

「自分達のお寺を、自分達の手で整備する喜びを実感できた」との嬉しいお声も聞かれました。

住職の願うところの“開かれた、みんなの寺”という言葉が少しづつ浸透していることを、ありがたく思いました。

ここに御奉仕いただいた方の御芳名を御報

告致します。

磯崎正・磯崎利子・一寸木誠一・一寸木勝男・一寸木ツヤ子・小泉しず江・一寸木康夫・一寸木千津子・小石川政勝・磯崎美範・磯崎重和・一寸木福子・小泉操・高橋光成・一寸木保・杉本十三子・杉山久雄・高橋サダ子・一寸木正治・一寸木尚子・杉山哲・杉山正・山崎洋二・一寸木高男・一寸木治久・一寸木和弘・杉山博倫・一寸木和子・磯崎泰美・勝又晴美・磯崎貴子・永松久雄・鈴木直幸・篠崎時光・篠崎勇・小泉直人・小林敏江・一寸木富子・小宅康友・杉本光昭・小石川啓輔・一寸木健一・磯崎繁幸・谷内久美子・永松利明・小野清・杉山弘一・鈴木健一・一寸木将都・小石川美津代・小野英敏・下田雅博・下田雅由・杉本勝巳・下田一路司・小泉スズ江・高橋稔・磯崎美枝子・一寸木シズ子・一寸木光昭・遊佐玲子・一寸木雅明

ありがとうございます。

(順不同・敬省略)

○屋根替え寄付の御報告

九月四日現在で総額二百萬円の寄付が集まっております。短期間にもかかわらず、住職・役員も驚く程に関心を寄せていただき感謝申し上げます。機が熱して屋根替えをする時まで、大切に積み立てさせていただきます。又、彼岸中、本堂に通帖を置きますので、確認ご覧下さい。

